

主な事業

中小企業への支援	6億9,700万円
「(仮称)ミニ道の駅三木東」の整備	1億2,000万円 (債務負担)
住宅リフォームへの助成	1,000万円
若年者の雇用を促進	200万円
女性起業家の支援	165万円



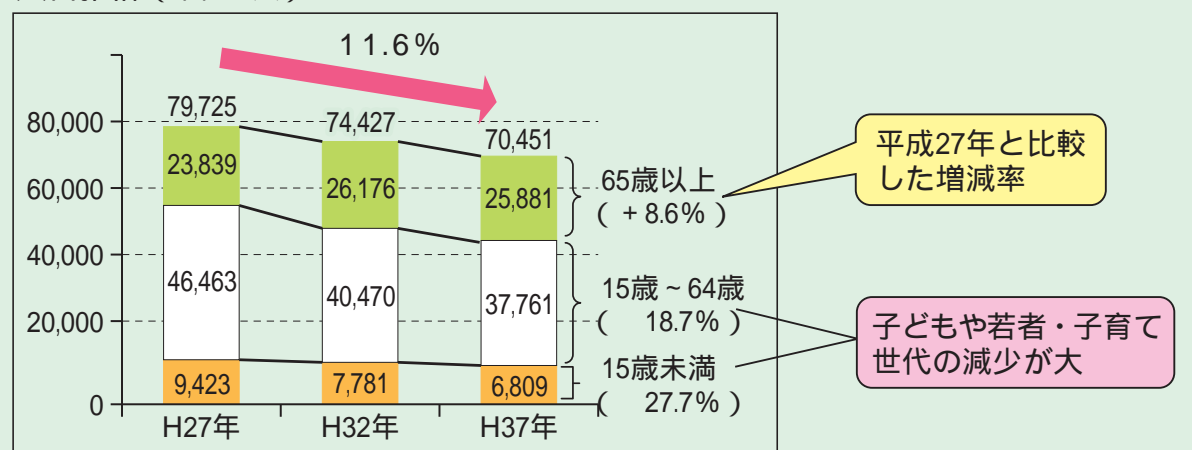
2 市内への「ひと」の流れをつくる

保育料の50%軽減や、仕事と子育てを両立しやすい認定こども園の整備など、若者世代が子育てしやすい環境づくりを進めます。

また、英語教育を小学1年生から導入し、中学3年生までの9年間で英語による日常会話ができるようカリキュラムを作成し、グローバル社会に対応した教育を行ないます。

さらに、三木を訪れる観光客が年間で560万人と県内でも有数の観光のまちとなっていることから市内25カ所のゴルフ場に人を呼び込むほか、歴史・美術の杜みゅーじあむの中核施設として上の丸城跡の図書館を歴史資料館として整備し、市内への観光による「ひと」の流れをつくります。

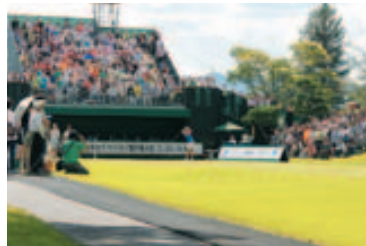
人口推計(単位:人)



・H27年はH27年1月末の住基人口。H32年及びH37年は国立社会保障・人口問題研究所発表資料より

主な事業

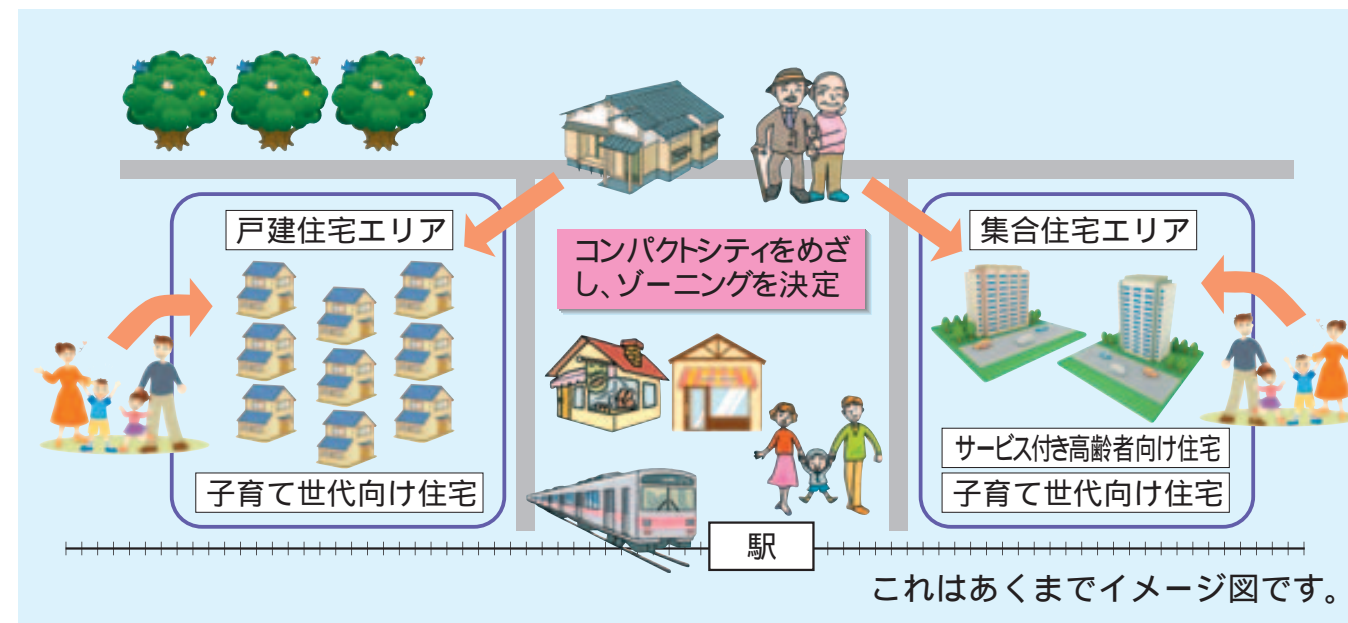
保育料50%軽減や認定こども園の整備など幼保一体化の推進	6億3,422万円
ゴルフの振興(一部3月補正)	8,171万円
歴史資料館の整備など、歴史・美術の杜みゅーじあむの推進	4,684万円
観光協会の運営の推進	2,800万円
「話せる英語教育」を小学1年生から実施(3月補正)	1,880万円



3 安全・安心で住みよい「まち」をつくる

緑が丘団地をエリア指定する中で、住み替えによる戸建住宅群から集合住宅群への整備などを進め、子育て世代の定住を促進し、多世代が共生する団地再生を進めます。

また、超高齢社会に対応するために昨年、モデル的に実施した「地域ケア会議」を本格的に実施するとともに障がい児の放課後等デイサービスや発達障がい児の支援、さらにはバス交通網の見直しを行うなど安全・安心で住みよい「まち」をつくります。



主な事業

公共交通の充実(電車・バス)	5億1,681万円
(仮称)福井コミュニティスポーツセンターの整備	3億5,000万円
公共施設の耐震化	3億2,578万円
障がい児の放課後等デイサービスや、発達障がい児の支援の実施	5,000万円
緑が丘地域のまちの再生(一部3月補正)	2,300万円



神戸電鉄福祉カードの廃止について

神戸電鉄への三木市独自の支援策として平成23年度から4年間実施してきた「神戸電鉄福祉カード」の交付は、神鉄の平成25年度決算が黒字化しており、しかもその黒字額が市からの支援額を大きく上回り、支援策としての目的が終了したため平成27年度から廃止する予定です。

なお、高齢者や障がいのある方に対しては、これまでどおり「福祉バス等助成事業」において引き続き外出支援を行なっていきます。